

ポン菓子機各部の説明

- ポン菓子加工失敗の原因
- ベアリングの交換について
- ベアリングの交換方法
- 新型釜について
- 圧力計について
- 給油について
- 圧力計の掃除について
- 安全弁について

👉 ポン菓子加工失敗の原因

○ふくらまずに焦げている原因

- ①パッキンの圧力もれ（ほとんどの場合、これが原因です）
 - 押しボルトの曲がりのため、蓋がきちんと閉まっていない。
 - 締め方の不足・不良。
 - パッキンの再生不良。
- ②圧力計取付部の圧力もれ
 - 締め不足。
 - シールテープの巻の不良
- ③釜の回転が遅い
 - 1分間に60回転くらいです。
- ④火力不足
 - 釜の半分くらいの火柱。
 - 風などで火力が安定していない。
- ⑤焦げぐせ

○ふくらんでいるが色がつく原因

- ①圧力計の指定圧オーバー。
- ②打ったあと、釜から出す動作が遅い。
- ③釜の回転不良。
- ④火力不良。
- ⑤圧力計のくるい。

○釜の中に焦げたものが残る原因

- ①焦げぐせ→釜の中の焦げを細目のペーパーで完全に取り除く。
- ②釜から製品を出すのが遅い。製品を釜の中に残した。
- ③圧もれ。
- ④釜の回転不良。
- ⑤量が少ない。（1升釜の場合・・・白米7合以下，5合釜の場合・・・4合以下）

○焦げてはいないが全体に小さい原因

- ①圧力不足。（圧力計の故障などのため、指定圧よりはやく打ってしまった。）
- ②米の質が悪い。
- ③加工量が少ない。

○小米が多い

- ①圧もれ。
- ②焦げぐせ。
- ③火力不足。
- ④米の質が悪い。
- ⑤加工量が少ない。
- ⑥熱い釜に米を入れたまま 回転させずに放置した場合。（米が焼き付く。）

○焦げぐせについて ※焦げぐせのついた釜では良いものはありません。

- ①細目のペーパーで釜の中の焦げを完全に取り除く。
- ②もち、マカロニ、トウモロコシなどを加工したあとは、必ず木綿のウエスで掃除してください。※化センでは溶けてしまいます。
- ③まだ一度も打ってない釜は、打つ前に中をウエスで拭ってください。

👉ベアリングの交換について

コンロの火によりベアリングの油分がなくなり、ベアリングが回らなくなります。つぎのような場合には、なるべく早くベアリングを交換します。

- ①回転が重い。(途中で止まることもあります。)
 - ②軸受より異音が出る。
 - ③自動式の時は、バッテリーがすぐなくなります。
- 軸受にベアリングが2個入っています。手前側のAの方を交換します。
ベアリングの交換は半年に1度位です。



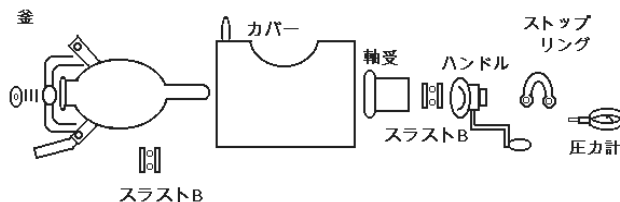
※ベアリング番号→6205ZZ

※ベアリングは完全に回らなくなる前に交換してください。

※ベアリングが半年以下で悪くなるのは、ハンドルの、ネジが緩み、釜が前に出てベアリングに火が入るためです。ハンドルのネジをよく締め、緩まないようにして下さい。

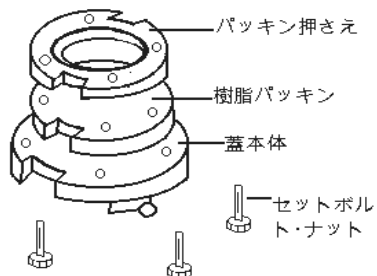
👉ベアリングの交換方法

- ①圧力計・ハンドル・ストップリングを取り外す。
- ②ハンドルの傷が軸についているので、傷をヤスリなどで完全に取ります。
- ③釜をぬく。(ぬけない場合は、軸の傷がまだ残っています。)
- ④軸受は取り外す。(3本のボルトをスパナで外す。)
- ⑤軸受に締め棒を差し込み、手前のベアリングを外し、新品と交換する。
- ⑥軸受を取り付ける。(カバーの穴の中心に、ベアリングの中心を合わせる様にして下さい。)
- ⑦釜を入れ、ハンドル・圧力計を取り付ける。



👉 新型蓋について

新型は、鉛の代わりに樹脂製パッキンを使用して釜口に安全弁を設け、異常圧を防ぐようにしていま



- 樹脂パッキンは、両面使用できます。
- 片面で200回前後の使用が目安です。
- パッキン面にキズができると、圧力が漏れる原因となりますので、蓋を閉めた状態で本機を移動するなどして、パッキン面にキズがつかないようにしてください。

《蓋の閉め方》

最初 3回くらいの加工の際は、強めに閉めます。パッキンが温まると、やわらかく弾性がでてきますので、少し弱めに閉めても圧が漏れなくなります。

👉 圧力計について

※圧力計は、耐震用をご使用ください。

《圧力計の故障》

- ①加工後 針が0に戻らない。
 - 指定圧力をオーバーして加工した場合。
 - 左手の支えが不十分。
 - 圧力計の裏のネジの緩み。
- ②小さな針のくるとい (0.1~0.2MPa)
 - 0.1のところで針が止まっている→指定圧力+ (プラス) 0.1MPa で打ちます。
 - -0.1のところで針が止まっている→指定圧力- (マイナス) 0.1MPa で打ちます。このように計算して打ちます。
- ③計算しにくいほど狂っている時。
 1. 圧力計のガラスを外し、ドライバー2本を使って針をはさみ、上に持ち上げて針を抜きます。この時、芯棒を曲げないように注意して下さい。
 2. 0に針を合わせて差し込み、抜けないように軽く頭を叩いておきます。
 3. 圧力計の裏のネジ2本がゆるんでいないか確かめます。

※ 注意

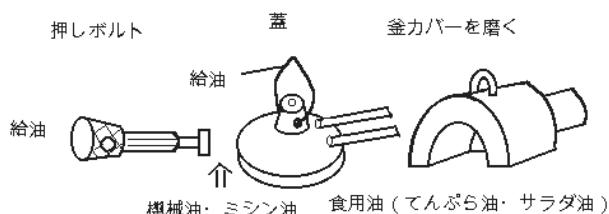
針を取り付けたあと、指先で針をはじき、0に戻れば使用可能です。0に戻らなければ、内部の故障です。

4. 修理した圧力計にシールテープ (ホームセンターにあります。) を2~3重に巻き、ハンドルに付けます。

※おしぼり程度に絞ったタオルを釜に入れ、火をつけて回し、圧力計が上がるかテストしてから押しボ

ルトを緩めて取り出し、そのあとに使用すれば材料のムダがありません。

👉給油について



押しボルトのネジ部・蓋（パッキン）孔・セットボルト部品には、必ず給油してください。押しボルトはいつもスムーズに動くようにしてください。

👉圧力計を取り外して掃除する

1週間に1度くらい、圧力計を外し本体の小さな穴を針金などで掃除します。シールテープのカスや小さなお米が詰まっています。掃除が終わったら、圧力計にシールテープを2～3重に巻き、ハンドルに取り付けます。

※**圧力計を外し、釜口から覗いて光が見えるかどうか確認してください。**

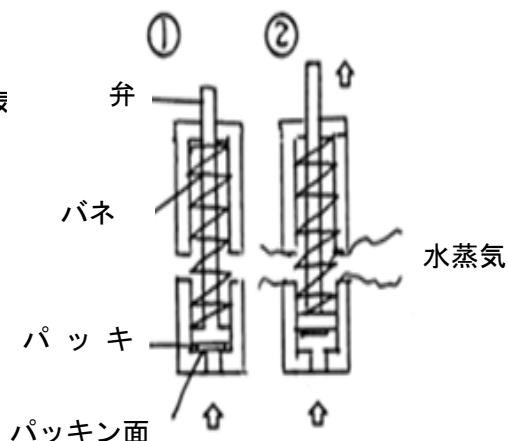
👉安全弁の点検

弁の代わりに鋼球の入っている仕様は古いタイプです。交換して下さい。

※ **注意** 安全弁が作動した時は、必ず火を止めて圧の上昇を防いで下さい。

《安全弁の原理》

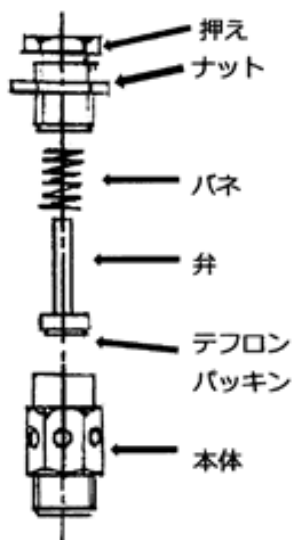
弁をバネで押さえることによって釜の中の圧力を止めています。圧力が上昇し、バネの押さえる力より大きくなると図②のように弁が上にあがり、隙間から圧（水蒸気）が逃げ、圧力の上昇を止めます。



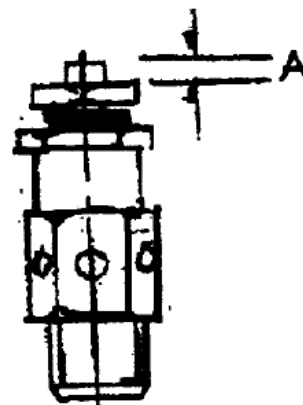
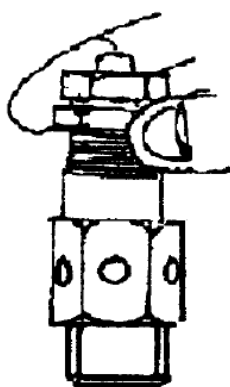
《安全弁の故障の原因》

- ①バネが伸びて押さえる力が弱くなった時
- ②バネの押さえの調整が狂った時（調整方法参照）
- ③一度圧力がもれ、パッキン面に異物が入り、圧力がもれやすくなった時

《安全弁の調整方法》



釜から取り外し左図の様に一度分解して下さい。
弁の先端のテフロンパッキン部の汚れを落し、(キズのある場合は交換します。) ナットを押えの上にした状態で再組立てします。
Aの寸法が8mmになる位置でナットを下げ固定します。濡れタオルで圧力テストをして作動確認して下さい。



注▶ 安全弁はポン菓子機用に材質など特別仕様になっています。